

**「愛なき世界」 三浦しをん 著 中央公論新社**

昨年も一昨年も三浦しをんさんの作品を紹介してきました。昨年は「2年連続同じ作者の作品を紹介するのはいかなものか…」と思いながら紹介文を書いていたのですが、今年はまだ開き直って（むしろ狙って）、2019年本屋大賞にもノミネートされた「愛なき世界」を紹介したいと思います。

某国立 T 大学近くにある洋食屋の見習い・藤丸陽太は、T 大学の院生・本村紗英に恋をします。しかし、彼女は三度の飯よりシロイヌナズナ（葉っぱ）の研究が好きで、植物という“愛のない世界”を生きるものの研究に全てを捧げる女性でした。

真面目でポジティブな愛されキャラの藤丸君と植物オタクの本村さんの恋愛がメイン…と思いきや、本村さんが所属する研究室での日常（殺し屋にしか見えない研究室の教授や温室をサボテンだらけにしてしまう後輩、イモを愛する老教授等これまた個性的）がメインで、実験についても詳しく書かれ、研究者として地道な研究に取り組む姿勢や葛藤・苦悩は、専攻は違えど同じ理系で日々実験や研究に取り組んでいる皆さんと通じるものがあるのではと思いました。同じ理系の皆さんなら、文系ど真ん中な私が読むのに苦労した本村さんの研究の描写もすんなり理解できるはずです！

また、本作誕生のきっかけは、モデルになった某国立 T 大学大学院で植物の研究をしている教授からのオファーで、その後緻密な取材を重ねて本作を執筆したとのことで、将来大学や大学院に進学を考えている学生さんは、大学の研究室の雰囲気味わうこともできると思います。

現在、図書館では貸出カウンター向かいの棚で「本屋大賞受賞作品フェア」を開催中で、本作はそこに展示されていますので、興味を持たれた方はぜひ。

最後に、三浦しをん作品の魅力は、軽快でユーモア溢れるセリフやテンポのよい会話、お仕事小説と呼ばれている、世間ではあまり馴染みのない職業にスポットを当てた設定の面白さ、なにより登場人物一人一人が個性溢れ魅力的な所だと思います。他の小説もおすすめですし、気軽に読みたい方はエッセイもおすすめします。独特な感性や観察眼、シュールな笑い、たまじめな妄想…。作者の魅力が存分に詰まっています。本校図書館にも数冊ありますので、こちらもぜひ！